

## 大島稔名誉教授記念号の刊行にあたって

学長 和田 健 夫

大島稔先生は、1975年3月に小樽商科大学商学部をご卒業後、北海道大学大学院文学研究科に進学され、1981年3月に同修士課程(言語学)を修了し、同年4月に小樽商科大学短期大学部講師として赴任、1991年10月同言語センター助教授、1993年10月同教授、さらに2007年10月から2010年3月までの2年6ヶ月、言語センター長を勤められ、2015年3月に定年退職されました。定年退職後2年間の特任教授期間を含め、36年の長きにわたり、本学の教育研究や大学運営に多大の貢献をなされました。

先生の研究分野は、言語学、言語人類学で、とくに北方地域の少数民族の記述言語研究において多くの業績を残されました。たとえば、研究論文として、“On Causative and Transitive Constructions in Aleut, Eskimo and Ainu” 人文研究64輯1982年、“Use of Sea Mammals by Akutan Akeuts”, The Qaluyaarmiut 2: An Anthropological Survey of Southwestern Alaska Eskimos, Department of Behavioral Science, Faculty of Letters, Hokkaido University 1984年、「アリュートの狩猟・漁猟活動と関連語彙覚書」北方文化研究1988年、“Prosody and Vowel Reduction in Eastern Aleut”, Osahito Miyaoka (ed.), Languages of the North Pacific Rim, Hokkaido University Publications No.7, Department of Linguistics, Faculty of Letters, Hokkaido University 1994年が、調査報告書として、『アイヌ民俗文化財調査報告書：アイヌ民俗調査Ⅰ～ⅩⅤ』（渡辺仁・切替英夫・佐藤知己と共著）北海道教育委員会1982年～1996年などが挙げられます。さらに、2001年3月から2003年1月にかけてロシアにおいて在学研究「カムチャツカ半島先住民の伝統的生業に関する生態学・民俗学・言語学的調査研究」に従事されました。

教育の面では、大島先生は、学部では、「一般英語」、「英語学概論」、「言語学概論」の講義と「研究指導」を、大学院では、「学術英語」、「異文化コミュニケーションの基礎」（現代商学専攻前期課程）を担当されました。「研究指導」のテーマは「日英語対照言語学」で、日本語と英語の比較対照を分析方法に用い、日本語および英語の語彙意味構造、統語構造、談話構造、言語行動等に関する研究を行うものでした。

先生の特筆すべき教育上の貢献として、2009年から2011年にかけて、英語の授業にTOEIC IPとe-learningを導入する先進的なプロジェクトを主導し、本学においてそれを実現したことが挙げられます。英語教育を先導する試みは、現在のBlended Learningプロジェクトに引き継がれ、先生はここで多くのデジタル教材の作成に関わりました。

先生は、また、中学・高校・大学で英語科教員を目指す学生の教育にも力を注がれました。中学・高校・大学で教職に就いている本学卒業生により1998年に設立された「教職研究会」（現場の教員による事例報告、研究報告を毎年12月本学において開催）の会長を、2010年から2015年まで務められました。先生の下から、多くの優秀な教員が育ちました。

2017年1月30日に行われた大島先生の最終講義のテーマは、「英語はどう学ぶ？ どう教える？」でした。英語教育の手法が変遷するなかで、小樽商科大学での、36年に及ぶ、英語をいかに教えるかについて悪戦苦闘の日々が紹介され、最終講義にふさわしい内容でした。

一層のご活躍を期待するとともに、私どもへの変わらぬご指導をお願いする次第であります。